

口は健康のもと Vol.116 入れ歯で人生を再発見

認知症から立直る

歯や舌、粘膜などの口腔組織が、全身の健康状態に大きな影響を及ぼしていることがわかってきました。

歯が抜けると噛み合わせが悪くなり、体の重心が変化します。するとバランスが悪くなり、踏ん張りが利かず、最後には転倒しやすくなってしまいます。また、口の中の手入れが悪かったり、歯が抜けたままの状態でいたりすると、上手く食事がとれなくなり、唾液の分泌も低下し口臭が発現します。さらに顔の表情が変わり、他人に会って話をするのがいやになり、閉じこもりの原因の一つとなるようです。

奥歯が2本抜けただけで食べる能力は、単純に1/5に減ってしまいます。一方、総入れ歯を入れることで咀嚼能力は、すべて歯のある人の1/3程度まで回復し、部分入れ歯も同様の効果があります。入れ歯を使用することは、口の中の形態を回復させ、頬と舌が円滑な協調運動になり、食塊を形成する能力を高めて飲み込みやすくなります。さらに、入れ歯の使用で家族と一緒に同じものが食べられるようになり、痴呆・認知症から立ち直った人もいます。このように入れ歯を使用して豊かで楽しい生活を送りましょう。



奥羽大学歯学部附属病院
総合歯科 准教授 清野 晃孝

